



特別
84
8101
4



和歌名所追第四

洞津伊賀
八幡

伊賀 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

山田郡

神名帳三座

鳥坂神社

阿波神社

葦野神社

里之名

木代

川原

作系

名所

風森

風森 追考は所有松植村 武義記 暗山凡の森

井碓山

井碓山 日 日 井碓山 井碓山 井碓山 井碓山 井碓山 井碓山 井碓山 井碓山



天川井をささり乃山民を根より月の水とあはれけりていふは後
柘植山 産後至二高本 追考有里名 上野山東

花垣庄 日比道
かみりまき早志とつけの山山只とてそこのむ屋とあはれ

山名集云あつち高野寺乃早あまありし八重橋と上高門
院よりりまわて其うらうら高本金野とてあはれ
とよせ花垣の庄と名付て酒とせさせられ花乃
さかりて月信直とて是とすもせせらるる今よ
彼庄寺乃知くうとて

高野寺 産後至二高本 日有甲野社

あけきのこわらひとてとけれハ高野寺もあや高野人
らりぬてい人々於高の毒あまらこの高野寺とてあはれ
追考有里名 産後至二高本 追考有里名 日有甲野社
あはれとてい人々於高の毒あまらこの高野寺とてあはれ

伊賀郡 人とのま 志の儀くしうる流を神とのまあそ打ぬしとれ 後人

神名帳十一座

- 木根神社 木根 田守神社 田守 比地神社 比地
- 大村神社 大村 比々岐神社 比々岐 比自岐神社 比自岐
- 依那古神社 依那古 猪田神社 猪田 手美祢神社 手美祢
- 高瀬神社 高瀬 坂戸神社 坂戸

- 阿保 阿保 阿我 阿我 神戸 神戸
- 猪田 猪田 大内 大内 長田 長田

阿保山 追考八雲山抄大和守あり高野寺とて高野山名高野郡里の名あり
あはれ山たぬま乃花をくくしうもてりまわん人々乃とて

あはれ山と名よみそこれのつらき長きぬ本ハ花咲行家
長田森 社名高野内長田あり 長田村丹波 長田山備中ニあり

赤松ありひらうらうら女侍多代國長田乃森とて
ありありとて

誰其森 八雲五抄ニ當國
いのちこれあり此森のさうりせん候りよ意う宿とんば
名宗 さいとてこれその森代部名をうけてもさぬさうり

追考げふ所 赤村あり森乃終て田の中り
板一申其志 一と終りいふくをたそあり
森とてと野より一里計南あり

長其森 薩摩ニあり
かきくじのあそむる部とてさうりすうらう長その森
日好良村ありこれその森とてさうり半里計あり

阿并郡

神名帳九座 七一

陽妻多神社 宇都可神社 波太伎神社

須智荒木神社 敢國神社 大ニ官記曰 金山媛命也 依々神社

穴石神社 直木山神社 小宮神社

里之名

枯殖 川合 卯代

服部 三田 新居

名所

柏野 名宗ニ當國 追考有柏野村

玉瀧 名宗 山此のて柏野のあそむるもさうり
服部川 流る京川

右ニ条孫宮美徳道之記ニ出たり 比有あぬの心也

伊推

驛家

神戶

磐志心濟

郡の名

多しを此たし此後よりあつても大ま人の事もあるん 元

追考 伊勢二尺より浦へ 立石 江村 柳下

伊神 小信 伊勢乃浦 ちて 後宮郡の西より

志 磐志心濟 百多 伊勢 伊勢乃浦 伊勢乃浦

たし 伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

あつて せんが ちて 伊勢乃浦 伊勢乃浦

とて 伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

須賀嶋

志 須賀嶋 須賀嶋 須賀嶋

伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

あつて 伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

夏箕浦

追考 八雲山 伊勢乃浦 伊勢乃浦

伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

路鳥嶋

追考 一尺 伊勢乃浦 伊勢乃浦

伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

飛幡浦

月今も羽也とて

伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

浮浦

月今羽の内 伊勢乃浦 伊勢乃浦

伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

高濱

伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦 伊勢乃浦

伊勢乃海の心はくまなくあせたりはるる屋しきよ中務

安古山

月多羽出ふ 四手の修日下歌

あこの山は重かききりての修さてをせしは若きしゆ
袖半抄云けり万葉のうききりて心ぬきあこの山とて
山乃海をらわたりてうらむるさての修しきよ中務
まのあぶらに決まると云初といえ修あり
下句はさて久きれ若きしゆとてあせし心ぬき
蠶といふ中しゆしゆとてあせし心ぬき
とてゆといひてあせし心ぬきとてあせし心ぬき
とてゆといひてあせし心ぬきとてあせし心ぬき
とてゆといひてあせし心ぬきとてあせし心ぬき
とてゆといひてあせし心ぬきとてあせし心ぬき
とてゆといひてあせし心ぬきとてあせし心ぬき
とてゆといひてあせし心ぬきとてあせし心ぬき
とてゆといひてあせし心ぬきとてあせし心ぬき

よつてゆとてうらむる 下界

どろれあし人となりて 四手此修ゆとて 志くすまんとん 母は屋 生貞久

右奇天皇河口行宮幸之時作之時

往け歌不有此行言く作字所以然言之勅大

又從河口行宮還京勿令從駕焉何有詠思詔

埒作歌哉

磯守濟

進考 磯守村ナキ山とて内文事社あり

いそ守の修は潮つる海望乃日たも子う為と 潮つるあ月乃

いそ守の修は潮つる海望乃日たも子う為と 潮つるあ月乃 中百 権六文

いそ守の修は潮つる海望乃日たも子う為と 潮つるあ月乃 有房

いそ守の修は潮つる海望乃日たも子う為と 潮つるあ月乃 敦仲

いそ守の修は潮つる海望乃日たも子う為と 潮つるあ月乃 兼邦

黄虞郡

紀列傳也

無神社

里之名

甲斐

名錐

船越

道淳

芳草

二色

餘戸

神戶

錦浦

追考 紀伊志麻呂江あり 流浦抄中 高志世お雲國有同名

後於 名々る此流の浦とて之れをわらぬ海ありとて 歌も道令

名々る 此流の浦とて之れをわらぬ海ありとて 歌も道令

此流の浦とて之れをわらぬ海ありとて 歌も道令

斗貝三流

藤原并也此流三流也

斗貝三流 乃長柏ふるくそ 歌むひろきと 麻阿

追考 三角柏のり 伊勢流 常陸河乃 西具記之

佐々良流の流 伊勢國 伊良 虞 鳩 之時 人哀傷 作歌

あり 乃英虞郡 流

伊良虞鳩

伊勢流 西行の流 三河志麻呂流 伊勢大橋 白の三四里あり

麻績王 流於伊勢國 伊良 虞 鳩 之時 人哀傷 作歌

打麻とて之れを哀あるれやいそ 流乃玉もかりま

麻績王 聞之 感傷 和歌

るる此流の流 伊勢國 伊良 虞 鳩 之時 人哀傷 作歌

右案 日本記曰 天皇四年 乙未 夏四月 戊戌 朔 乙卯

三品 麻績王 者 罪 流 于 因 幡 一 子 流 伊 豆 鳩 一 子 流

血 鹿 島 也 是 云 配 于 伊 勢 國 伊 良 虞 島 者 若 疑

後人 縁 歌 辭 而 誤 記 乎

五 塔さぬまのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
佐後様 ともかすのりこのあまもさすやかすくまあつと神ハあつ人
及経

峯

4 戒 玉もるのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
孔孝

佐後様 ともかすのりこのあまもさすやかすくまあつと神ハあつ人
匡房

日雅 凡ゆるのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
入及

塔前日 浪乃るのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
國信

山家 いと信すのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
西行

日 ちと信すのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
日

名守 雲乃るのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
長

日 霧乃るのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
日

玉 信ひくのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
家隆

本 ちと信すのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
基俊

日 浪もるのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
西行

日 凡ゆるのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
浪人

日 あつと信すのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
李程

日 あくさたひるて神をぬれまるとのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
為忠

日 ちと信すのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
佐藤

日 ちと信すのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
佐西

追考 けふ三河系 佐西の内也 花羽 けふ海と七里あり

佐藤 けふけふのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
佐西

三河 けふのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
佐西

國名 けふのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
佐西

万葉 けふのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
佐西

佐西 けふのりくは遠くあま珠をらんあつと信す人
佐西

直良徳野

紀伊半島郡 有同名

伊奈國志海乃海士所しをな海の小舟のりてあき漕家持
 足^たきみの浦乃信由より心ありとあきありぬも人屯
 足^集きみの浦此信由よりされハ我もひとよくもやハヤハ兼備
 信^至由やとあきあるみまはくもみを老れはく也たり意有
 一とせといく交差よ足^ままの浦此信由よりまきりん日
 三^日徳の信由よりされ海よりいふことなる 徳さうらん日
五ノ時のももあきこれの信由をあげたあき足^ままの浦定家
五ノ足^ままの浦乃信由より白少此神の列もくもあき信由
内集足^ままの浦乃信由よりひはじ徳も移る神乃同之須徳
万代万代と足^ままの浦此信由のかとあき也つてせまきし 後日
道保百月よとて人の心と足^ままの浦つてさなる浦乃信由より定徳
 三徳の浦乃信由よりとそあきをせなる
 五ノ内侍

同くは海乃浦乃信由よりあき乃よふる神と人の心と也
邦六いするはさなる三徳の浦此信由よりあき
五ノ三徳の信由よりまきりん日
夫本三徳野のころあきとあきわれのあきなる浦此信由より雅徳
 追考 直良徳野の事 紀伊国志に云きり
 と古来よりいす 仏貫一万葉集抄に信由よとよ
 めるのあきなることと云 又彦彦集に 浦の信由よとよ
 足^ままののよあきけ信由より大乃大御食の時志摩
 国より教とあきなる同例也是と云 徳の心とあき
 あき芭蕉よいするまきりん日
 言わゆる也又是よけきと云とて人の心とあき
 足^ままのあきなる其人もいす也又是よと云 足^まま
 の名をまて枕の下よあきとあきいなる

直良徳野 四

凡そとせけん後の小停務なりとされよも紀行
ふをあるとて今停務南西ありぬる所
に在所なるありは先抄に信州ありとす
南西にゆれと大京大文家集にらまのまじり
と人のまふよとてつづつとるるに凡そ
備の信州ありとありは紀行徳神の浦に信
州ありと例返し信州一名よりとてあるは
よりとあり又考紀世道之記に徳信といふ
り又二里計南の方より徳野徳大信神名寺
と書り是に三川所を此處よりとすといふ也
志うといふ徳信の道三河の方よりありと
やれ可る

るしと山城の道考十二巻^{アツカ}標よりとすは
し北らわりの玉く郡に方角行むと念
るし膏^{カウ}育^{クハウ}よ入れぬわりのまはらり
かともうしと茶のうもまきくを入しと
わらとらやもつとに若のい重なりこのいぬ
あはらわらとてつづつとれりよとて
今神代は志にありとすはまきくを信され
あはらうしとありとすはまきくを信され
志にありとすはまきくを信され
くもは國をゆるり草の藤よりとすは
るる石よりとすは水の近つとすは

高野山

1. 名族通考
 2. 卷之四
 3. 名族通考
 4. 卷之四
 5. 名族通考
 6. 卷之四
 7. 名族通考
 8. 卷之四
 9. 名族通考
 10. 卷之四
 11. 名族通考
 12. 卷之四
 13. 名族通考
 14. 卷之四
 15. 名族通考
 16. 卷之四
 17. 名族通考
 18. 卷之四
 19. 名族通考
 20. 卷之四
 21. 名族通考
 22. 卷之四
 23. 名族通考
 24. 卷之四
 25. 名族通考
 26. 卷之四
 27. 名族通考
 28. 卷之四
 29. 名族通考
 30. 卷之四
 31. 名族通考
 32. 卷之四
 33. 名族通考
 34. 卷之四
 35. 名族通考
 36. 卷之四
 37. 名族通考
 38. 卷之四
 39. 名族通考
 40. 卷之四
 41. 名族通考
 42. 卷之四
 43. 名族通考
 44. 卷之四
 45. 名族通考
 46. 卷之四
 47. 名族通考
 48. 卷之四
 49. 名族通考
 50. 卷之四
 51. 名族通考
 52. 卷之四
 53. 名族通考
 54. 卷之四
 55. 名族通考
 56. 卷之四
 57. 名族通考
 58. 卷之四
 59. 名族通考
 60. 卷之四
 61. 名族通考
 62. 卷之四
 63. 名族通考
 64. 卷之四
 65. 名族通考
 66. 卷之四
 67. 名族通考
 68. 卷之四
 69. 名族通考
 70. 卷之四
 71. 名族通考
 72. 卷之四
 73. 名族通考
 74. 卷之四
 75. 名族通考
 76. 卷之四
 77. 名族通考
 78. 卷之四
 79. 名族通考
 80. 卷之四
 81. 名族通考
 82. 卷之四
 83. 名族通考
 84. 卷之四
 85. 名族通考
 86. 卷之四
 87. 名族通考
 88. 卷之四
 89. 名族通考
 90. 卷之四
 91. 名族通考
 92. 卷之四
 93. 名族通考
 94. 卷之四
 95. 名族通考
 96. 卷之四
 97. 名族通考
 98. 卷之四
 99. 名族通考
 100. 卷之四

